

釈迦三尊像

この金張りの釈迦および2体の菩薩の像を止利仏師の作としている。「仏師」とは「仏像をつくる彫刻家」という意味の呼び名である。止利は飛鳥時代（593～710年）の最も多作な彫刻家のひとりである。彼は代々続く鞍作りの職人の家の出だったが、聖徳太子の庇護のもと、青銅の鑄造による彫像の制作に取り組むようになったと考えられている。

この像は、623年に完成し、その造像の由来が光背の裏に刻まれている。それは聖徳太子の病気平癒を願い、聖徳太子と等身の釈迦如来の像を造り始めたが、完成する前に太子は亡くなられたため、太子が浄土へ登り早くさとりを開かれることを願ったという内容である。